

みんなのた場

スポット
ライト

クジラ先生 山本龍治さん

ホエールランド学芸員

捕鯨文化を学ぶ場提供

おしかホエールランドで学芸員を務める山本龍治さん(30)は、地域密着でクジラの生態や特徴、牡鹿半島の捕鯨文化を紹介しており、「クジラ先生」の愛称で親しまれています。

山本さんは捕鯨の町である和歌山県の出身です。大学の研究で度々鮎川浜を訪れており、修士課程修了後、東日本大震災の被災で再建されたホエールランドの学芸員となりました。来館者にクジラの歯や骨を使った工芸品の製作体験などを提供するほか、捕鯨に関する写真や工芸品、骨といった資料の収

集を行っています。

館内展示のデジタル化も進めており、タブレットを使った情報提供アプリを開発しました。クジラの名前をスキャンすると、頭骨の3Dモデルを見ることが出来ます。

そんな中で誕生したのが、鯨類の頭骨を3Dプリンタで出力したカプセル入りのミニフィギュアでした。集める楽しさがあり、初回生産時からすぐに売り切れてしまうほど人気集めました。

学芸員としての仕事はほかにも、館内の解説や窓口での案内があります。漂着したクジラやイルカの標本化

も行っており、6年間で5体を手がけました。

ホエールランドに寄せられた質問への回答も担当しています。特に多いのはマッコウクジラに関する質問です。「クジラ先生」の山本さんによれば、館内に展示されている「脳油」は昔、ろうそくやせつげんに加工したり、工業用のグリスにしたりして活用されました。

山本さんは、ホエールランドなどホエールタウン内の施設を管理する鮎川まちづくり協会にも所属しています。「生き物が好きで、こうやってクジラに関われる仕事ができるのは幸せ。とてもやりがいがあります」と笑顔。「同じ哺乳類でも、人間と全く違う進化で海に適應したクジラ。その生態を学んでいくのが何より楽しい」と言い、地域にも溶け込んでいきます。

その上で「鮎川浜は全国でも珍しい捕鯨の町。昔から続く日本の捕鯨文化を学ぶ場を提供していきたい」と意欲的です。



クジラの骨格標本と山本さん



館内での解説ツアーの様子

きらり★まきっこ 29

コツコツ努力でメキメキ上達

こぼりない なぎと
小堀内 渚斗さん(鹿妻小学校6年)

空手経験者のお母さんが「楽しいよ」と勧めてくれたので、1年生のときから習っています。やってみると本当に楽しくて、今でも続けられています。目の前のことをコツコツと頑張り、練習を重ねた結果、5年生のときに黒帯を取得できました。

8月には利府町である全国大会に形の部で出場します。去年は組手の部に団体で出場しましたが、形の部は初めてです。全国の舞台は当然強い選手ばかりが集まります。緊張で普段の力を出せるか心配ですが、初戦敗退だった去年の結果よりも多く勝ちを重ねたいです。

今は黒帯の初段ですが、次は二段、三段としっかりと昇段していきたいです。



市報いしのまき 第336号 令和8年8月1日発行
発行 石巻市総務部秘書広報課 ☎0225-95-1111 FAX23-4340
〒986-8501 宮城県石巻市穀町14-1

編集/制作 (株)石巻日日新聞社
古紙/パルプ配合の再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。再生紙としてリサイクルできます。「ざつがみ類」として分別してください。

住民基本台帳による石巻市の人口と世帯数(前年比)			
令和8年6月末現在	人 口	128,859人	(▲2,148)
	世帯数	62,510世帯	(-)